

明治の大災害の元凶



秋まき小麦が芽吹いた畑に現れたトノサマバッタです。

明治12年に十勝で大発生したトノサマバッタは、翌13年には日高山脈を越えて胆振・石狩地方にまで移動し、農作物に大きな被害を与えました。

十勝での本格的な開拓が始まる以前の出来事ですが、このことがきっかけとなって、十勝原野の大々的な調査が行われ、広大な原野の全貌が明らかとなったのです。